

ちよこつと散歩～名勝小金井桜を訪ねて

大正 13 年(1924 年)12 月 9 日付で国の「史跡名勝天然記念物保存法」に基づき
名勝に指定された歴史的文化遺産である小金井桜のヤマザクラ並木を次代に適切に継承し
「小金井桜の並木復活」の実現を目的に行政との協働事業として官民一体で
『小金井桜復活』への実現を図ります。



甦った!春雨に映える名勝小金井桜



甦った!夕日に映える名勝小金井桜



茶芽葉



緑芽葉



黄芽葉



赤芽葉



オオアラセイトウ（大紫羅欄花）が満開



ニンリソウ(二輪草)が復活群生



ノカンソウ（野萱草）が復活群生

名勝 小金井桜の会

ホームページ koganeizakura.com

桜の野生種(基本種)

我が国の山野に自生する 10 種の**サクラ属基本野生種**は下記の桜です。

また、これらから育成された園芸品種は 200 以上もあります。

■ヤマザクラ(山桜)

我が国の桜の中で最も代表的な種類で、古くから詩や歌に詠まれ親しまれてきました。

主に本州中部以南に自生しており、別名シロヤマザクラとも呼ばれます。

古くから山に自生しており、昔のお花見は山桜を見ることでした。

吉野山(奈良県)・桜川(茨城県)・小金井が名勝として有名です。



■オオヤマザクラ(大山桜)

本州中部以北に自生するオオヤマザクラは、葉や花などの各部分は全体にヤマザクラより大柄です。花色がバラ色でヤマザクラより濃く、別名ベニヤマザクラ・エゾヤマザクラと呼ばれます。

■カスミザクラ(霞桜)

北海道、本州、四国に分布し、ヤマザクラに似ている桜です。別名ケヤマザクラは、花や葉の部位が有毛である場合が多いことからです。同じところでは、花期はヤマザクラよりずっと遅い桜です。

■オオシマザクラ(大島桜)

伊豆諸島と伊豆半島南部に自生する桜で、花は白色で若葉と良く調和し優雅な美しさがあります。葉は、塩漬けが桜餅を包む皮として利用されています。**小金井公園東側「ユリノキ広場」に関東随一といわれる立派な大島桜があります。**



■エドヒガン(江戸彼岸)

本州・四国・九州と広く自生する桜で、花は早咲きです。この桜は長寿で各地に巨木・名木が点在しております。この桜の枝が下垂するものがシダレザクラです。市内にも農家の庭先・神社等に在ります。



■チョウジザクラ(丁字桜)

東北地方の太平洋側の低山地、関東地方、中部地方の産地に多く分布します。花弁が小さくがく筒が太く長いその花の形から、「丁」の字を連想させるのでこの名があります。

■マメザクラ(豆桜)

富士・伊豆・房総を中心とする地方に自生する種類で、このため別名フジザクラ、ハコネザクラとも呼ばれています。名のように花は小さく、低木状の木にいっぱい花を咲かせます。



■タカネザクラ(高嶺桜)

北海道、本州中部以北の亜高山帯に分布する小高木の桜で、ミネザクラ(峰桜)の別名もあります。北海道にみられるチシマザクラはこの桜の仲間です。

■ミヤマザクラ(深山桜)

北海道に多く、南は九州まで見られるが、南下するにつれ亜高山帯に多くなります。開花期が遅い桜で、また花のつき方が他の桜とは違う総状花序です。

■クマノザクラ(熊野桜)

2018 年に新種と判断された日本の紀伊半島南部が原産のサクラで、ヤマザクラに比べて花弁のピンク色が鮮やかでヤマザクラとカスミザクラより花序柄が短く無毛、葉身が小さく卵形。3 月中旬から 4 月上旬に開花する



280年の歴史を誇る郷土の歴史的文化的遺産

名勝小金井桜の歴史

私たち、名勝 小金井桜の会は、NPO 法人環境再生機構(通称:小金井桜を復活する会)と一緒に小金井桜復活の実現に向けて、東京都・小金井市・小平市・西東京市・武蔵野市や関係団体と協働して、玉川上水堤にかつての名勝としてふさわしいヤマザクラ並木を復活させ郷土の文化遺産として適切に継承する活動などを進めています。

名勝 小金井桜とは

元文 2 年(1737 年)に江戸幕府の新田開発の一環として八代将軍徳川吉宗の命により

川崎平右衛門定孝によって玉川上水の両岸に植樹されたヤマザクラ並木。

280 年の歴史を誇る全国的に有名な花見の名所で、奈良県の吉野山と茨城県の桜川から取り寄せたとされる由緒ある日本古来のヤマザクラ並木です。



小金井桜の歴史

江戸時代



元文 2 年 (1737 年)、幕府の命により、府中押立村名主の川崎平右衛門定孝が奈良県吉野や茨城県桜川からヤマザクラの名品を取り寄せ、農民たちが協力して植樹しました。文化～天保年間 (1804～1844 年)、隅田川堤・飛鳥山・品川御殿山と並び称される桜の名所となり、多くの文人墨客が観桜に訪れ、『江戸名所図会』や広重の錦絵に描かれ、庶民の間にも有名になりました。

お花見時の茶店では多摩川で撮れた鮎の塩焼きや桜餅・団子等を販売し大きな収益を上げました。花見客の帰路は国分寺跡を訪れ、府中宿に出て、大國魂神社に参拝し、甲州街道に沿って江戸に戻るコースでした。



明治・大正時代

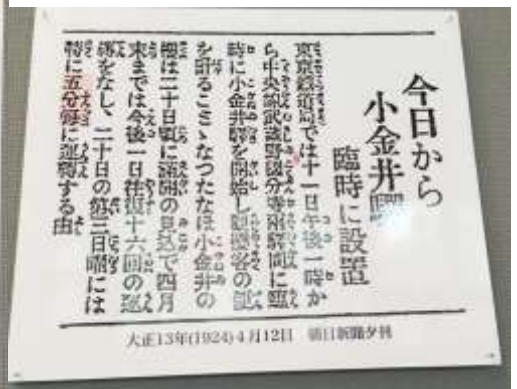
幕末の動乱期を経て、明治 22 年（1889 年）に甲武鉄道（現 JR 中央線）が開通しました。花見時期には鉄道会社は武蔵小金井駅を臨時停車場として開設し割引切符を発行、臨時列車を増発し東京から花見客を誘致して数千人もの行楽客が訪れました。また、西武鉄道も花小金井駅を同時に新設しました。玉川上水付近の新田農家はにわかに花見茶屋に変身し、一年分の農業収入に匹敵するほどの稼ぎを得て、地域経済は大いに潤いました。



鈴なりの小金井橋花見客



混雑する武蔵小金井駅



- お花見の為に武蔵小金井駅が臨時の停車場に 1924(大正 13)年 4 月 12 日付東京朝日夕刊 2 面

大正 13 年 大正 13 年（1924 年 12 月 9 日）桜博士として有名な三好學博士により、国の名勝史跡天然記念物として吉野山・桜川・御室と一緒に「名勝指定」されました。昭和初期まで関東随一の花見の名所として賑わいました。



名勝小金井サクラ



名勝吉野山サクラ



名勝桜川サクラ

昭和初期のお花見風景



昭和初年に小金井橋はコンクリートによる護岸工事が行われています。当時、安全柵は無く、法面との境に石杭を並べていました。現在の陣屋橋(昭和 48 年架設) 付近の右岸で桜の下に蓑座を敷き、のんびりと花見をする家族、堤を散策する花見客がいます。当時の「小金井桜のお花見」は玉川上水堤でした。

昭和 30 年代以降

戦後は五日市街道の排気ガス・手入れ不足により並木の衰えは著しく、富士見桜や日の出桜といった多くの銘木が立ち枯れてしまいました。昭和 40 年代に入ると、小平監視所下流の玉川上水の通水が停止され、水道用水として使われなくなったため水路や桜並木の荒廃が始まり、わずか 20 数年でケヤキなどの雑木が繁茂し、荒れ果てた景観に変わり果てました。日照不足や天敵のキノコ類の発生等により生育環境が悪化し、小金井桜は危機的状況になりました。

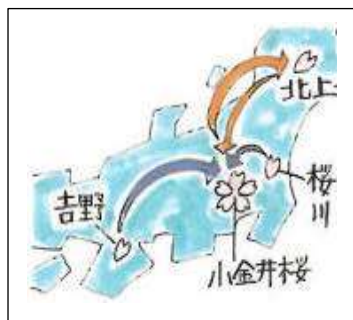
名勝 小金井桜の現状

長い歴史の中で育まれてきた私たちの大事な郷土の文化遺産である小金井桜が、樹木の老齢化や五日市街道の排気ガスなどによる生育環境の悪化により、毎年 10 数本の桜が枯死する状況が 10 数年続いており、最盛期に 1471 本あったヤマザクラが平成 26 年現在 849 本に減少(東京都教育庁調べ)しています。まさに名勝小金井桜はこのままで放置すると絶滅となり、名勝の国指定を返上することになります。



名勝小金井桜の景観

《 名勝 小金井桜のふるさと 》



名勝 小金井桜の起源は元文 2 年(1737 年) 玉川上水の両岸に植樹されたヤマザクラの並木です。奈良県の吉野山と茨城県桜川から取り寄せたとされる由緒ある桜です。このヤマザクラの並木は、江戸時代から地元の農民たちにより守られてきましたが、幕府の代官たちも雑木の伐採や桜の苗木の補植を進めるなど、桜を守る努力を続けてきました。今、危機的状況にある国の名勝「小金井桜」を私たちの代で絶やすことなく、後世に引き継がなくてはなりません。明治時代の有名な植物学者三好博士の研究により、玉川上水堤の小金井桜のヤマザクラ並木は天然変種の一大集積地であることが明らかになりました。大正 10 年には岩手県北上市の展勝地公園造成に小金井ヤマザクラ 1200 本が植樹され、現在東北三大桜として多くの観光客を集めています。2007 年 11 月 4 日 86 年ぶりに小金井の地に「里帰り」が実現しました。

◎日本古来の桜はヤマザクラ

ヤマザクラは、日本固有の桜で東北地方から九州まで広く分布しています。中でも奈良県の吉野山のヤマザクラは有名ですが、名勝 小金井桜もヤマザクラの並木です。ソメイヨシノが明治以降全国に植えられるようになるまでは桜といえばヤマザクラと昔から人々に親しまれてきました。

◎葉と開花・・・その関係は

ヤマザクラは東京周辺ではソメイヨシノよりもやや遅く開花しますが、早咲きのものもあります。また、ソメイヨシノは花が咲き終わるまで葉が開きませんが、ヤマザクラは開花と同時に赤葉・茶葉・緑葉等の若芽が開き、花とマッチした色とりどりの桜が楽しめます。

◎後継樹の育成とその性格

ソメイヨシノは接ぎ木もしくは挿し木などによるクローン植物なるがゆえに、遺伝子と同じなので条件が整えば一斉に開花します、花の色も形も同じで変わりがありません。ヤマザクラは自然交配によって繁殖するので開花の時期、花の色、形、大きさ又葉の若芽の色などが一本一本毎に異なり、約 1 ヶ月間、人々の目を楽しませてくれます。また、桜の特性である「自家不結性」(他の桜の花粉を受精しないと実がならない)により実生苗ではヤマザクラ以外の園芸品種との交配により純粋なヤマザクラの発芽が難しく、現在は接ぎ木・挿し木等の手法により小金井桜の後継樹を 6 ～ 7 年かけて苗木の育成を行い、玉川上水堤に植樹しています。

◎小金井桜の現状

約 280 年の歴史の中で守られてきた、私たちの財産である小金井桜の並木が、樹木の老齢化や五日市街道の交通量の増加・雑木の繁茂などにより、樹勢が衰えています。このまま放置すれば、近い将来「名勝 小金井桜」は失われてしまうでしょう。



キノコに浸食された小金井桜



雑木を伐採した後に現れた変形した小金井桜の姿



雪により折れた五日市街道沿いの小金井桜

約280年の歴史を誇る郷土の歴史的文化遺産

『名勝小金井桜』

次代に適切に引き継ぐために系譜の正しい古木の穂木を
接ぎ木して6年余の育成管理により
後継樹苗を育成しています



熟したサクランボ



6月のサクランボ拾い



翌年にサクランボの植付け



台木に古木の芽接ぎ作業 芽接ぎ苗を1年の育成管理



芽接ぎ成功!(成功率30%)



台木の芯を切断



小長久保ファームに移植



3年間の育成管理が始まる



雑草の草刈りが一大作業



ファームで大事に育成管理会議



発芽6年かかりやっと植樹へ



植樹された小金井桜後継樹



甦った新旧の名勝小金井桜の競演



北大通り いなげや本町店・小金井公民館本館の
西側の通りを北に約100M 仙川沿い西側。



甦った新旧の名勝小金井桜の競演

1924 年(大正 13 年)12 月 9 日に国の 「史跡名勝天然記念物保存法」により名勝に指定された 郷土の歴史的文化遺産である小金井(サクラ)の ヤマザクラ並木を次代に適切に継承するための市民活動の歩み

名勝小金井桜の会・NPO 法人小金井桜を復活する会

2018 年 5 月 20 日作成(小沼・石田調整)

1737 年(元文 02 年)		・川崎平右衛門定孝、幕府の命により小金井橋を中心とする玉川上水両岸に桜樹を 植栽する。
1914 年(大正 03 年)		・『小金井桜樹碑文』・享保年間(1716～36)や寛保年間(1741～44)の説もある。 ・小金井・小平両村有志、貫井橋から陣屋橋付近までの玉川上水堤に、キリシマツツジ 等を大神村(現昭島市)から移植する。(現在 190 本)
1915 年(大正 04 年)	4 月 18 日	・『小金井保桜会』海岸寺で発会式挙行。 ・東京市桜樹数調査。右岸 761 本、左岸 710 本。合計 1471 本。
1923 年(大正 12 年)	5 月 23 日	・花見シーズン小金井に臨時降車場設置。
1924 年(大正 13 年)	12 月 9 日	内務省、小金井桜を「名勝小金井(サクラ)」に文化財指定 ・桜樹総数 1468 本(右岸 758 本・左岸 710 本)「小金井の桜」
1925 年(大正 14 年)	1 月 15 日	・武蔵小金井駅が開設。4 月 21 日、イギリス人チェリー・イングラム小金井桜を散策。
1926 年(大正 15 年)	4 月 16 日	・東村山鉄道(現西武鉄道)花小金井駅を開設。
1927 年(昭和 02 年)		・小金井橋がアーチ式の石橋に改良される。このころまでが花見の全盛期。
1930 年(昭和 05 年)		・桜樹本数 1445 本。
1954 年(昭和 29 年)	4 月 3 日	・都立小金井公園一部開園。園内にサクラの園を造成。
1965 年(昭和 40 年)	3 月	・淀橋浄水場が廃止。小平監視所下流が上水の機能を失う。桜樹数 730 本。
1967 年(昭和 42 年)	4 月 1 日	・名勝小金井(サクラ)の管理団体が東京都建設局から東京都教育委員会に変更。
1968 年(昭和 43 年)	3 月 31 日	・小金井市観光協会、桜 260 本植樹(この時ヤマザクラ以外も植樹か?)
1976 年(昭和 51 年)	5 月 11 日	・小金井橋から梶野橋間の玉川上水堤に昭和 58 年までにアジサイ約 700 本植樹。
1979 年(昭和 54 年)		・小金井市観光協会昭和 58 年までに 117 本の桜樹植樹。「小金井市経済課資料」
1986 年(昭和 61 年)	8 月 27 日	・東京都、清流復活事業として小平監視所下流に環境保全用水(下水処理水)放流。
1995 年(平成 07 年)	3 月 31 日	・東京都教育委員会「名勝小金井(サクラ)現況調査報告書」発表。総本数 1120 本 (右岸 605 本・左岸 515 本、【ヤマザクラ 658 本・オオヤマザクラ 113 本・カスミザクラ 146 本・ソメイヨシノ 32 本・オオシマザクラ系 165 本・イヌザクラ 3 本、シダレザクラ系、 マメザクラ系、ミヤマザクラ系各 1 本】)

……以上、「名勝小金井(サクラ)現況調査報告書」・東京都教育委員会発行【小金井桜関係略年表】から抜粋……

「名勝小金井桜」次代に適切に継承するための活動の歩み

1996 年(平成 08 年)	2 月	・2 月 17 日～3 月 16 日 小金井市公民館緑分館主催、5 回連続市民講座開催 テーマ「名勝小金井桜一次代への遺産との対話」 講師:竹内誠氏・小林義雄氏・ 牧野和春氏・米谷開司朗氏・鈴木誠一氏、受講者 123 名。
	5 月	・「名勝小金井桜に親しむ会」代表世話人:石田精一が発足。
	1998 年(平成 10 年)	
1998 年(平成 10 年)	3 月	・読売新聞武蔵野版「武蔵野残照」で玉川上水・小金井桜を特集。
	11 月 15 日	・小金井市公民館緑分館 シンポジウム「玉川上水と小金井桜」開催出席者 91 名。
1999 年(平成 10 年)	4 月	・「名勝小金親しむ会」主催で『小金井桜写真展』開催。 ・東京都が玉川上水を都自然保護条例に基づく「歴史環境保全地域」に指定。
	4 月	・名勝小金井桜に親しむ会が小金井桜のふるさと茨城県岩瀬市(現桜川市)の桜川磯 部稲村神社訪問。その時、参加者は桜川桜の苗木を分けてもらい自宅で育てる。
	9 月	・9 月 4 日～10 月 9 日、小金井市地域福祉課主催「名勝小金井桜を守る」いきいき 活動講座(6 回)を開催、講師:鈴木誠一氏・米谷開司朗氏・米谷開司朗氏・石田精 一氏・岩崎文雄氏・浅田信行氏
	12 月	・「名勝小金井桜を守る会」代表世話人:藤村英明が発足
2001 年(平成 13 年)	5 月 28 日	・岩手県北上市「展勝地公園」開園 80 周年式典に際し、開園時に小金井から移植さ れ「小金井」と呼ばれ親しまれている〈後継ぎ〉の『小金井ヤマザクラ苗木』を伊藤彬北 上市長から稲葉孝彦小金井市長に目録贈呈があり、稲葉市長から「これまで老木を 守ることを重点に置いてきたが、今後は北上から贈られる桜を基に、後継ぎを育てること にも力を入れていきたい」と挨拶、後日里帰り事業の行うことになった。名勝小金井桜に 親しむ会石田精一代表世話人、名勝小金井桜を守る会藤村英明代表世話人同行
	2002 年(平成 14 年)	
2002 年(平成 14 年)	1 月	・名勝小金井桜を守る会が『名勝小金井桜・古老に聞いた花見の賑わい』の聞き取り小 冊子を刊行、語り手:関野長寿会・岡部文代氏、杉山義雄氏、島田フミ氏、1000 部 発行
	4 月 5 日	・「北上さくらの会」「桜川さくら関係者」を小金井市に招待、北上さくらの会から 35 名参 加、桜川から磯部稲村神社磯部宮司参加、市総合体育館で交流会開催。
	7 月	・名勝小金井桜を守る会が「名勝小金井桜樹勢調査」を開始(以後毎年調査)
	11 月	・名勝小金井桜に親しむ会が「落ち葉回収大作戦」を開催(以後毎年開催)
2003 年(平成 15 年)	8 月	・玉川上水地下部分を除く約 30km(羽村～浅間橋)が文化財保護法に基づく国の史 跡に指定される。
	9 月	・名勝小金井桜を守る会・名勝小金井桜に親しむ会・小金井公園桜守の会が毎年枯死 の進む小金井桜の現状と保全活動について都教育委員会と意見交換会を開催。
	11 月 24 日	・桜川サクラサクリプロジェクト一行(代表:渡辺雄司氏総勢 20 数名)が小金井桜視察 研修に来る。名勝小金井桜に親しむ会・名勝小金井桜を守る会・小金井公園桜守の 会が対応し、小金井桜・小金井公園の桜を視察、意見交換。
	2005 年(平成 17 年)	
2005 年(平成 17 年)	3 月	・名勝小金井桜に親しむ会・名勝小金井桜を守る会共催「小金井桜を守る!」講座開 催。講師:北上さくらの会伊藤彬会長、江戸東京博物館竹内誠館長、日本さくらの 会浅田信行樹木医
	6 月 16 日	・名勝小金井桜に親しむ会と名勝小金井桜を守る会が統合「名勝!小金井桜の会」発 足。会長:大久保眞七、副会長:石田精一・藤村英明、事務局長:小沼廣和就任。

2007 年(平成 19 年)	11 月 4 日	・北上さくらの会から小金井桜の後継樹 11 本が 86 年ぶりに里帰り、伊藤彬北上市長、稲葉孝彦小金井市長、大久保真七名勝小金井桜の会会長により 5 本を小金井橋袂に植樹、6 本は市内公立保育園に植樹。
	3 月	・東京都水道局、文化財保護法に基づく「史跡玉川上水保存管理計画」を策定。
	3 月	・名勝小金井桜の会、財団法人日本さくらの会「第 4 3 回さくら祭り中央大会」で『さくら功労団体』として全国表彰。
	8 月	・北上市主催「第 47 回みちのく芸能まつり」に小金井市無形文化財貫井ばやしが小金井桜の縁で招待・公演。
	10 月	・小金井市市制 50 周年記念として、北上さくらの会から小金井桜後継樹 50 本を市内栗山公園・私立二小・二中・緑中・法政大学・国際基督教大学高校・都立小金井工業高校・武蔵野東中学校・都立小金井公園・市立公園に購入、記念植樹。
2008 年(平成 20 年)	1 月	・講演会「甦れ！名勝小金井桜；今私たちが為すべきこと」開催、亀山章農工大学教授の講演と農工大学景観生態学研究室柚木英恵研究員の「名勝小金井（サクラ）の保護に関する研究」の発表。
	6 月	・公開講座「平成の世に甦れ！名勝小金井桜」開催 延べ 1 3 4 名出席
	8 月	・東京都水道局「史跡玉川上水整備活用計画」を策定。玉川上水の水路の保全、名勝小金井のヤマザクラ並木の復活、史跡を積極的に公開する等、具体的な施策を示す。新小金井橋から関野橋間 640m を『小金井桜復活モデル地区』に指定し、小金井桜後継樹を植樹する方針を示す。
2009 年(平成 21 年)	3 月 20 日	・名勝小金井桜復活シンポジウム開催。パネラー：大石学東京学芸大学教授・法政大学長瀬克己教授・和田博幸日本花の会主任研究員 100 名余参加
	4 月 10 日	・「平成 22 年度総会」に於いて、名誉会長：大久保真七、会長：石田精一、副会長：藤村英明・富山日出夫・鰐山英次・西岡真一郎、事務局長：小沼廣和を選出。
2010 年(平成 22 年)	1 月 25 日	・茨城県桜川市立岩瀬小学校の児童が総合学習の一環で育てた桜川磯部稲村神社のヤマザクラ育成苗 30 本を「サクラサクリプロジェクト」(渡辺雄司代表)の斡旋で寄贈を受ける。
	2 月 5 日	・「小金井桜復活祭プレイベントー育て未来の小金井桜」種まき祭開催。 北上展勝地小金井桜・名勝小金井桜のサクランボを小平ボーイスカウト 5 団・小金井ガールスカウト 109 団の子供たちが杉山造園苗は他に種まきイベント。
2011 年(平成 23 年)	2 月	・2 月 11 日・12 日・13 日、「平成に甦る-名勝小金井桜大復活祭」開催。 『桜のまちづくりサミット』パネラー：吉野山保勝会山本茂之事務局長・桜川日本花の会磯部亮代表・北上さくらの会伊藤彬会長・名勝小金井桜の会石田精一会長 『小金井桜復活植樹祭』『新小金井橋～関野橋間モデル地区』に小金井桜後継樹 26 本植樹 『小金井橋完成植樹祭』(吉野山保勝会・桜川磯部稲穂神社・北上さくらの会・小金井公園桜守の会寄贈苗を小金井橋袂 4 隅に 4 本植樹) 『名勝小金井桜今昔写真展』：武蔵小金井駅改札口構内 『桜のふる里物産展』：フェスティバルコート奈良県まほろば館・吉野町・北上市・桜川市・市商工会が物産展開催、大樹映美歌謡ショー、奈良県「せんとくん」・北上市「鬼丸君」・小平市「ブルベア」・小金井市「こきんちゃん」キャラクター出演。
	3 月 11 日	14 時 46 分「東日本大震災発生」東北地方大津波発生・福島第一原発大爆発
	3 月 30 日	・吉野山保勝会「救おう千年の桜フォーラムin吉野山」開催。石田会長パネラー参加

2012 年(平成 24 年)	6 月	・25・26 日「吉野山サクランボ拾い」。吉野山保勝会と交流。(9 名参加)
	1 月 7 日	・NPO 法人小金井桜を復活する会設立。名勝小金井桜の会と表裏一体の活動することを決定。理事長:日並洋一・副理事長:小沼廣和
	1 月	・28・29 日、北上さくらの会「北上展勝地 90 周年シンポジウム&フォーラム」開催。 特別講演:佐野藤右衛門(日本さくらの会技術顧問)、基調講演:小林勝(弘前公園緑地課参事)パネラー:福井良盟(吉野山保勝会理事長)、磯部亮(桜川日本花の会代表)石田精一(名勝小金井桜の会会長)、伊藤彬(北上さくらの会会長)・・・ 小金井からの参加者 21 名
	2 月	・「新小金井橋～関野橋間モデル地区」に小金井桜後継樹 40 本植樹
	3 月	・小金井市「玉川上水・小金井桜整備活用実施計画」策定。 小金井桜の市域別桜の本数推移発表 小平市(1993 年 436 本・2011 年 316 本・枯死率 28%) 小金井市(1993 年 529 本・2011 年 401 本・枯死率 24%) 西東京市(1993 年 48 本・2011 年 30 本・枯死率 38%) 武蔵野市(1993 年 102 本・2011 年 39 本・枯死率 62%) 合計 1993 年 1115 本、2011 年 786 本、枯死数 329 本、枯死率 30%。 名勝指定区域のサクラの本数の推移発表 1926 年(名勝指定時) 左岸:703 本 右岸:765 本 合計:1468 本 1993 年(東京都教育委員会調査) 左岸:514 本 右岸:601 本 合計:1115 本 2006 年(名勝小金井桜を守る会調査) 左岸:453 本 右岸:474 本 合計: 927 本 2008 年(東京都水道局調査) 左岸:428 本 右岸:427 本 合計: 855 本 2011 年(小金井市調査) 左岸:402 本 右岸:384 本 合計: 786 本 名勝指定時 1926 年の 1468 本から 2011 年には 786 本と約半数(54%)に激減。
2013 年(平成 25 年)	3 月	・小金井市本町 4 丁目緑地を小金井市から提供受け「小金井桜育苗ファーム」開所。
	5 月	・名勝小金井桜の会が小金井桜後継樹苗の育成を開始。 ・日本製紙アグリ事業「容器内挿し木技術」による小金井桜後継樹の挿し木繁殖試行を開始。供試した 5 樹の母樹から採取した穂木から発根生育を開始した幼苗 2 2 本を杉山造園のハウス内で育成し 4 本の成苗がえられた。(このうち 3 樹は平成 2 9 年度の整備事業で後継樹として使用)
	12 月 17 日	・「桜苗育ての親」と「名勝小金井桜の会」との交流忘年バスハイク開催。 スカイツリー・築地・浅草寺見学・50 名参加
	1 月 25 日	・小金井市議会に『名勝 小金井桜』の復活へ向けてモデル地区終了後も引き続き小金井市として小金サクラの植栽事業を継続する決議の陳情書」「玉川上水堤の小金井桜の成長を阻害する木々の伐採を要望する陳情書」を提出、審議の結果、3 月 6 日に全会一致で採択。
	2 月	・関野橋～新小金井橋間モデル地区 25 本植樹
	3 月 9 日	・NPO 法人小金井桜を復活する会と名勝小金井桜の会共催で山梨県都留市南都留森林組合が推進している、まちづくり「緑の港」構想事業の要請を受け、「名勝小金井桜」の系譜を引き継ぐ「北上産小金井桜」の苗木約 30 本を公益法人国土緑化推進機構の助成事業として菅野川堤に植樹。
	3 月 31 日	・東日本大震災で多大な被害を受けた宮城県気仙沼大島亀山に大島観光協会主催で第 1 回「みらいの桜植樹祭」を(公財)日本花の会から多種多様な品種の 1 年生物の桜の苗の寄贈を受け 1 0 0 本を植樹。
	4 月 9 日	・「桜川お花見バスハイク」・・・磯部稲村神社・高峰山のヤマザクラ観桜会・・・22 名参

2014 年(平成 26 年)	5 月	・宮城県気仙沼小学校に小金井桜苗を 5 本寄贈。(震災復興祈願小金井桜 12 本寄贈)
	6 月	・日本製紙の協力で第 2 回の挿し木によるヤマザクラの苗木育成試行。6 樹を供試、26 個体が発根したが、その内 18 本を幼苗として杉山造園のハウス内で育成。
	2 月	・「西屋橋から新小金井橋間」に小金井桜が枯死により欠損場所に小金井桜後継樹 26 本植樹。
	3 月 16 日	・連続集中講座「玉川上水と小金井桜」開催。
2015 年(平成 27 年)	10 月 14 日	・第 12 時樹勢調査に於いて「樹勢調査 10 年の歩み」を製本印刷
	2 月	・「関野橋～梶野橋間」に小金井桜後継樹 22 本植樹
	3 月 7 日	・東日本大震災復興祈願宮城県気仙沼大島第 2 回「みらいの桜」植樹祭に(公財)イオン環境財団から助成金の交付を受け、気仙沼大島観光協会・NPO 法人小金井桜を復活する会・北上さくらの会の共催事業として 124 本の 3 年生物の小金井桜苗を植樹。
2016 年(平成 28 年)	3 月 23 日	・小金井市本町 4 丁目「小金井桜育苗ファーム」を返還・閉鎖。
	3 月 26 日	・小金井市本町 3 丁目小長久保公園内に「小金井桜育苗ファーム」移転。
	4 月	・NPO 法人小金井桜を復活する会「お花見ハイク&スタンプラリー」以後毎年開催。
	7 月	・NPO 法人小金井桜を復活する会「カブト虫相撲大会小金井場所」以後毎年開催。
	10 月	・NPO 法人小金井桜を復活する会「ハロウィン&スタンプラリー」以後毎年開催。
	2 月 1 日	・小金井桜関連 4 団体(都教育委員会・都水道局・小金井市・桜の会)連絡会開催。
	2 月	・「関野橋から梶野橋間」に小金井桜後継樹 14 本植樹
	3 月 26 日	・第 3 回「みらいの桜」植樹祭を(公財)イオン環境財団から助成金の交付を受け、気仙沼大島観光協会・NPO 法人小金井桜を復活する会・北上さくらの会の共催事業として 79 本の 4 年生物の小金井桜苗を植樹。
2017 年(平成 29 年)	3 月	・川崎平右衛門ゆかりの真蔵院境内に No.119 の小金井桜接ぎ木後継樹を植樹。
	3 月	・法政大学生命科学部植物栄養医科学研究所の小林昌永大学院生が卒業論文として「名勝小金井桜(ヤマザクラ)の SSR 法に基づく系統樹作成による分類」を発表。
	2 月	・「関野橋から梶野橋間」に小金井市域 11 本・武蔵野市域 8 本、小金井桜後継樹 19 本植樹。
	3 月	・法政大学生命科学部の濱岡小雪大学院生が卒業論文「玉川上水のヤマザクラの SSR を利用した比較による分類」を発表。
	3 月 11 日	・第 4 回「みらいの桜」植樹祭を(公財)イオン環境財団から助成金の交付を受け、気仙沼大島観光協会・NPO 法人小金井桜を復活する会・北上さくらの会の共催事業として 100 本の 3 年生物の北上小金井桜苗を植樹。総植樹本数 403 本。
	4 月 2 日	・平右衛門橋袂に No.119 の古木からの接ぎ木による苗木を川崎平右衛門没後 250 年記念として東京都・小金井市長・川崎平右衛門家代表・真蔵院住職により植樹「平右衛門桜」と命名。
2018 年(平成 30 年)	4 月 8 日	・「第 1 回名勝小金井桜観桜会&花見の宴」を真蔵院十住堂で開催 20 名参加。
	6 月 5 日	・府中市に於いて「川崎平右衛門没後 250 年」式典開催。
	2 月 3 日	・府中市郷土の森川崎平右衛門像袂に No.119 他を含む『小金井桜』5 本記念植樹。
	2 月 3・19 日	・「川崎平右衛門と名勝小金井桜」連続講座開催・講師大石学教授・93 名参加。
	3 月 19 日	・「小金井橋から新小金井橋間」に小金井桜後継樹に 15 本植樹。
	3 月 30 日	・JCOM 放送番組「長々と散歩」西岡市長と【玉川上水で小金井桜を楽しむ】番組で満

		開の小金井桜復活内容を収録、4月16日から30日放映、石田精一・小沼廣和・杉山利男出演。
	4月8日	・「第2回名勝小金井桜観桜会&花見の宴」を真蔵院十住堂で開催 32名参加。
	5月19日	・「平成30年度定期総会」に於いて、名誉会長：石田精一、会長：小沼廣和、副会長：鰐山英次・杉山利男・日並洋一・植竹隆夫、事務局長：岩間博昭、事務局：本橋一夫を選出。
	5月20日	・川崎平右衛門顕彰会・研究会設立総会に出席。
	6月2・3日	・緑センター祭に於いて「第20回小金井桜写真展」開催。
	6月22日	・小金井市・都教育庁・都水道局の新担当者と小金井橋～新小金井橋間の雑木伐採・植樹計画の現地調査、その後、顔合せ及び当会からの改善要望書(メモ)を提出
	7月	・第16次小金井桜樹勢調査(ブロックごとに実施)
	7月18日	・杉山利男技術顧問指導で小金井桜後継樹「接ぎ木講習会」開催。
	8月21日	・「小金井桜復活事業について」小金井市長に要望書提出。
	9月21日	・小金井市長から「要望書」に対する回答受領。
	10月6日	・「小金井サクラ整備活用推進委員会」に役員傍聴。
	10月7日	・杉山利男技術顧問指導で小金井桜後継樹「接ぎ木(芽接ぎ)講習会」開催。
	10月14.15日	・「小金井市仲よし市民祭り」ブース出展・桜川氏・北上市も出店。交流会開催
	11月25日	・第16回「落ち葉回収大作戦」開催。
2019年(令和元年)	1月	・銘酒小金井桜蔵元訪問(豊島酒蔵)&新年懇親会を真澄で開催。
	2月	・小金井市市制60周年記念に武蔵小金井駅南口に「平右衛門桜記念植樹」
		・小金井橋から新小金井橋間に植樹する後継苗20本を小金井市に引き渡し。
	3月	・杉山利男技術顧問指導で小金井桜後継樹「接ぎ木講習会」開催。
		・法政大学佐野研究室から小金井桜DNA研究成果を聴取。
	4月5日	・玉川上水整備活用委員会の現地視察に教育庁・水道局・小金井市・小平市と同行
	4月7日	・観桜会(お花見散策&小金井桜花見の宴:真蔵院駐車場)
	5月31日～	・みどりセンターまつりにて小金井桜写真展
	6月2日	
	6月15日	・令和元年度(2019年度)総会
2020年(令和2年)	6月29日	・学習会「クビアカツヤカミキリの生態と予想される被害」椎名豊勝先生(参加者20名)
	8月17.18日	・玉川上水小金井桜の樹勢調査
	10月19.20日	・なかよし市民まつりに出展・北上市・小金井市の交流懇親会を開催
	11月30日	・玉川上水落葉回収大作戦を実施(29団体 349人参加)
	1月18日	・「超早咲植樹桜」の植替え要望に対する都・市の回答への対応
	2月14日	・玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会を傍聴
	3月～9月	・ 新型コロナウイルス感染症防止のため、育苗ファーム活動以外の事業を中止
	10月19日	・ 郵送による「議決権行使」により「2020年度定期総会」を開催
	12月1日	・北上展勝地開設100周年記念として小金井桜苗5本を小金井市と共同で贈呈
		・TBS「噂の!東京マガジン」取材対応。4月18日BS-TBSで13時から放映
2021年(令和3年)	3月18日	

名勝小金井桜植樹履歴年表

平成 7 年 3 月東京都教育庁「小金井桜関係略年表」を基に一部抜粋作成

2021 年 4 月編集作成 小沼廣和

1737 年(元文 02 年)		・川崎平右衛門定孝、幕府の命により小金井橋を中心とする玉川上水両岸に桜樹を植栽する。
1748 年(延享 05 年)		・『小金井桜樹碑文』・享保年間(1716～36)や寛保年間(1741～44)の説もある。
1767 年(明和 04 年)		・このころまでに、小金井桜植栽「玉川参登鯉伝」
1803 年(享和 03 年)	6 月 6 日	・川崎平右衛門定孝江戸にて病死。押立村の龍光寺に葬る。
1810 年(文化 07 年)		・「増補江戸年中行事」刊行、3 月の桜の頃に小金井橋紹介。
1830 年(文政 13 年)		・石井子亭等「小金井桜樹碑」建立。
1835 年(天保 05 年)		・ 桜樹数 169 本、他に近年補植 20 数本、両岸合計 189 本か? 「玉川上水緑桜植立絵図」玉川上水両岸の下草取りが持ち場村に、隔年実施が義務付けられる。
1844 年(天保 15 年)		・歌川広重「武州小金井堤満花之図」刊行。
1850 年(寛永 03 年)		・13 代将軍家定観桜。「江戸名勝古跡」
1855 年(安政 02 年)		・代官大熊善太郎、上水縁の村々に桜の苗木植え付けを命ずる。「下田家書」 補植を実施、合計 131 本。両岸合計 320 本か? 下田家文書「桜苗植付手控張」田無村名主下田半兵衛、関野橋下流の上水左岸に「桜樹接種記」建立。代官勝田次郎、桜保護のため雑木を伐採するよう命ずる。
1856 年(安政 03 年)		・代官小林藤之助、境・梶野・小金井・鈴木四カ村に桜の苗木代・肥料代として 311 本分 5 両余を下付。補植の経緯について勘定書に上申。「小金井桜植添申上」
1880 年(明治 13 年)		・ 左岸桜樹数 470 本(大 49・中 41・小 172・古木 4・苗木 204)「上水縁通桜木員数書上帳」右岸桜樹数 287 本か(大 54・中 17・小 125・苗木 91)「公用分例略記」 合計 757 本
1889 年(明治 22 年)		・ 昭憲皇太后行啓。この年東京府桜樹補植。桜樹総数 878 本 「東京市史稿」
1914 年(大正 03 年)		・甲武鉄道(現 JR 中央線)開業。境と国分寺に停車場できる。
1915 年(大正 04 年)		・小金井・小平両村有志、貫井橋から陣屋橋付近までの玉川上水堤に、キシマツツジ等を大神村(現昭島市)から移植する。(現在 190 本)
1916 年(大正 05 年)	4 月 18 日	・小金井村・小平村・保谷村・武蔵野村有志『小金井保桜会』海岸寺で発会式挙行。
1920 年(大正 09 年)		・三好學「日本産ヤマザクラの野生品種並びに栽培品種」「東京帝国大学理科大学紀要第 34 冊」で小金井サクラ新品種 38 品種 3 亜種発表。
1923 年(大正 12 年)		・「保桜会」「桜の会」共同経営苗圃に小金井産のヤマザクラ 3000 本を栽培。
1924 年(大正 13 年)	12 月 9 日	・東京市桜樹数調査。右岸 761 本、左岸 710 本。合計 1471 本。
1925 年(大正 14 年)		・花見シーズン小金井に臨時降車場設置。
1926 年(大正 15 年)	1 月 15 日	・ 東京市桜樹数調査。右岸 761 本、左岸 710 本。合計 1471 本。
1927 年(昭和 02 年)	4 月 16 日	内務省、小金井桜を「名勝小金井(サクラ)」に文化財指定
1930 年(昭和 05 年)		・ 桜樹総数 1468 本(右岸 758 本・左岸 710 本)「小金井の桜」
1954 年(昭和 29 年)	4 月 3 日	・武蔵小金井駅が開設。4 月 21 日、イギリス人チェリー・イングラム小金井桜を散策。
1965 年(昭和 40 年)	3 月	・東村山鉄道(現西武鉄道)花小金井駅を開設。
		・小金井橋がアーチ式の石橋に改良。この頃までが花見の全盛期。 桜樹数 1445 本。
		・都立小金井公園一部開園。園内にサクラの園を造成。
		・淀橋浄水場が廃止。小平監視所下流が上水の機能を失う。 桜樹数 730 本。

1967 年(昭和 42 年)	4 月 1 日	・名勝小金井(サクラ)の管理団体が東京都建設局から東京都教育委員会に変更。
1968 年(昭和 43 年)	3 月 31 日	・小金井市観光協会、 桜 260 本植樹(この時ヤマザクラ以外も植樹か?)
1976 年(昭和 51 年)	5 月 11 日	・小金井橋から梶野橋間の玉川上水堤に昭和 58 年までにアジサイ約 700 本植樹。
1979 年(昭和 54 年)		・小金井市観光協会昭和 58 年までに 117 本の桜樹植樹 。「小金井経済課資料」
1986 年(昭和 61 年)	8 月 27 日	・東京都、清流復活事業として小平監視所下流に環境保全用水(下水処理水)放流。
1995 年(平成 07 年)	3 月 31 日	・ 東京都教育委員会「名勝小金井(サクラ)現況調査報告書」発表。総本数 112 本(右岸 605 本・左岸 515 本、【ヤマザクラ 658 本・オオヤマザクラ 113 本・カスミザクラ 146 本・ソメイヨシノ 32 本・オオシマザクラ系 165 本・イヌザクラ 3 本、シダレザクラ系、マメザクラ系、ミヤマザクラ系各 1 本】)
2003 年(平成 15 年)	2 月	・小金井ロータリークラブ陣屋橋北側フェンス内に 10 本のヤマザクラ?を記念植樹し。
2007 年(平成 19 年)	11 月 4 日	・北上さくらの会から小金井桜後継樹が 86 年ぶりに 5 本里帰り小金井橋袂に植樹 。
2011 年(平成 23 年)	2 月 11・12・13 日	・「平成に甦る-名勝小金井桜大復活祭」開催。 『桜のまちづくりサミット』パネラー:吉野山保勝会山本茂之事務局長・桜川日本花の会磯部亮代表・北上さくらの会伊藤彬会長・名勝小金井桜の会石田精一会長 『小金井桜復活植樹祭』(関野橋～新小金井橋間モデル地区 26 本植樹) 小金井橋完成植樹祭』(吉野山保勝会・桜川磯部稲穂神社・北上さくらの会・小金井公園桜守の会寄贈苗を 小金井橋袂 4 隅に 4 本植樹) 『名勝小金井桜今昔写真展』:武蔵小金井駅改札口構内 『桜のふる里物産展』:フェスティバルコート奈良県まほろば館・吉野町・北上市芽桜川市・市商工会・観光が物産展開催、大樹映美歌謡ショー、奈良県「せんとくん」・北上市「鬼丸君」・小平市「ブルベア」・小金井市「こきんちゃん」キャラクター出演。
2012 年(平成 24 年)	3 月 11 日 2 月 3 月	14 時 46 分「東日本大震災発生」東北地方大津波発生・福島原発大爆発 ・関野橋～新小金井橋間モデル地区 40 本植樹 小金井桜の市域別桜の本数推移発表 小平市(1993 年 436 本・2011 年 316 本・枯死率 28%)、 小金井市(1993 年 529 本・2011 年 401 本・枯死率 24%)、 西東京市(1993 年 48 本・2011 年 30 本・枯死率 38%)、 武蔵野市(1993 年 102 本・2011 年 39 本・枯死率 62%) 合計 1993 年 1115 本、2011 年 786 本、枯死数 329 本、枯死率 30%。 名勝指定区域のサクラの本数の推移発表 1926 年(名勝指定時) 左岸:703 本 右岸:765 本 合計:1468 本 1993 年(東京都教育委員会調査) 左岸:514 本 右岸:601 本 合計:1115 本 2006 年(名勝小金井桜を守る会調査) 左岸:453 本 右岸:474 本 合計: 927 本 2008 年(東京都水道局調査) 左岸:428 本 右岸:427 本 合計: 855 本 2011 年(小金井市調査) 左岸:402 本 右岸:384 本 合計: 786 本 名勝指定時 1926 年の 1468 本から 2011 年には 786 本と約半数(54%)に激減。 ・関野橋～新小金井橋間モデル地区 25 本植樹 ・茜屋橋から新小金井橋間小金井桜が枯死・欠損している場所に 26 本の植樹 。 ・関野橋から梶野橋間に 22 本植樹 ・関野橋から梶野橋間に 14 本植樹 ・関野橋から梶野橋間に 小金井市域 11 本・武蔵野市域 8 本、合計 15 本植樹 。 ・平右衛門橋袂にNo.119 の古木からの接ぎ木による苗木を川崎平右衛門没後 250 年記念として 1 本植樹「平右衛門桜」と命名 。 ・ 小金井橋から新小金井橋間に 15 本植樹 。
2013 年(平成 25 年)	2 月	
2014 年(平成 26 年)	2 月	
2015 年(平成 27 年)	2 月	
2016 年(平成 28 年)	2 月	
2017 年(平成 29 年)	2 月 4 月	
2018 年(平成 30 年)	3 月	

2019 年(令和元年)	2 月	・小金井橋から新小金井橋間に 20 本植樹。
2020 年(令和 2 年)	2 月	・小金井橋から新小金井橋間に 26 本植樹。
2021 年(令和 3 年)	2 月	・小金井橋から関野橋間枯死木補充 6 本・新規 4 本植樹

小金井市長 西岡 真一郎 様

NPO 法人 小金井桜を復活する会 理事長 日並 洋一
名勝 小金井桜の会 会長 石田 精一

名勝小金井桜復活事業おける要望書

常日頃、名勝小金井桜の復活にご尽力いただき感謝申し上げます。

私たちは、名勝小金井桜が壊滅的状態にある現状から、東京都および小金井市が策定した「史跡玉川上水整備活用計画」に沿って、名勝小金井桜を復活するため、モデル地区の整備事業に引き続き、他の地区においても同様にヤマザクラの生育環境を阻害する雑木を伐採し、フェンス内に連続してヤマザクラ苗を植栽する事業を継続実施するよう、東京都教育庁、小金井市当局に平成 25 年 10 月 17 日付で別紙のとおり要請しました。

その結果、東京都教育庁、小金井市は「欠損木の補植」の方針の基に私たちの要望を受け入れていただき、平成 26 年・27 年・28 年の 3 か年計画で関野橋から梶野橋間のフェンス内 420m に小金井市域 38 本・武蔵野市域 8 本の小金井桜後継樹を新たに植樹いただき、可憐な花を咲かせてくださっていることは感謝申し上げます。

私たち郷土の大事な歴史的文化的遺産を次代に適切に継承するための「名勝小金井桜復活事業」を今後も市民団体との協働事業として展開するために下記の問題点について改善頂くよう要望します。

記

1、私たちは、欠損木補植の方式では植樹苗木の生育環境を良好に保つことは保証できないし、開花時期・花の色・若葉の色が多様なヤマザクラ並木は、計画的な植樹デザインに基づく苗づくりと植樹に拠らなければ形成出来ないと判断しております。よって茜屋橋から新小金井橋間についてもモデル地区同様にフェンス内に連続して小金井桜後継樹を植栽するよう方針を変更すると同時に、都教育庁にも方針変更を行うよう要請してしてください。

2、私たちは、これまでヤマザクラの実生から小金井桜の後継樹を育成する方法で苗木づくりを進めてまいりましたが、この方法では他の園芸品種の桜との自然交配によりヤマザクラ以外の桜が発芽する確率が約 3 割強との結果が出て、せっかく育てた桜苗を伐採しなければなりません。

例会での協議の結果、名勝小金井桜の系譜の正しいヤマザクラ並木を次代に適切に継承するためには、名勝区間に現存する多種多様なヤマザクラの古木の穂木を採取し、実生発芽した 2 年生苗を台木として接ぎ木する方法により後継樹の育成を行うとの方針に変更しました。この方法による植樹できる苗木としての育成期間は概ね 7 年を要することから長期的に安定した育苗ファームの確保が求められます。

現在、小金井市から提供されている小長久保公園は都市計画公園であるため様々な制約があり、桜苗を育成する苗圃としてその活動に支障をきたしております。よって制約の少なく永続的に使用可能な市内都立公園内に「小金井桜育苗ファーム」として確保できるよう東京都と交渉してください。

3、名勝小金井桜は小川水衛所跡～境橋間 6km にわたる小平市、小金井市、西東京市、武蔵野市の行政域に所在し、「ヤマザクラ並木」として国の名勝指定されたものです。この復活事業は共通した「整備活用方針」のもとに事業展開しないと名勝指定理由に抵触する恐れがあります。

是非、小金井市長のリーダーシップで共通した方針の基に広域的連携事業として「名勝小金井桜復活事業」を推進するため、東京都・四市・市民団体との連絡組織を設置してください。

国の名勝である「名勝小金井桜」は私たちの先代が 280 年もの間守ってきた地元市民の大事な歴史的文化的遺産です。私たちの代で絶やすことなく次代に適切に継承するため、後継樹の育成及び植樹後の日常管理について、『地元が守り、次代に継承する歴史的文化的遺産』として、地元四市と市民団体のコラボレーション事業として管理運営を図れるよう「指定管理者制度」等を活用して条件整備を行ってください。

嘉永 3 年(1850)の補植の際に下田半兵衛により関野橋袂に建てられた「桜樹接種碑」には『**百年余がたち老木化が進んだので・・・村むらで桜の苗木を持ち寄り、それぞれの持ち場に数百本を植えました。・・・桜樹が永久に植え継がれ、保護されことを願って建てたものです。**』とあります。是非先代の願いを私たちも引き継ぎたいと願っています。

上記 3 点について、文書をもってご回答いただきますようお願い申し上げます。

NPO法人小金井桜を復活する会 理事長日並洋一様
名勝小金井桜の会 会長石田精一様

小金井市長 西岡真一郎

「名勝小金井桜復活事業における要望書」について(回答)

日ごろより、本市の文化財行政にご理解をいただき、感謝申し上げます。
過日、お手紙にていただきましたご要望について、回答いたします。

1 欠損木補植方式からモデル区間事業方式の方針変更要請について

平成 22 年度から 24 年度まで、「史跡玉川上水整備活用計画」に基づき、東京都水道局が主体となり モデル区間(新小金井橋から関野橋間)の整備事業が遂行されました。

モデル区間事業が終了したことで、事業の継続性が不安視される中、平成 25 年度は、東京都教育庁による欠損木の補植事業が行われています。

一方、小金井市では、貴団体による陳情書提出(平成 25 年度)の他に、平成 23 年度から市独自で実施しているアンケート調査においても、小金井(サクラ)復活を望む要望が数多く寄せられています。

こうした経緯から、小金井市はモデル区間事業同様のフェンス内に連続した植樹方式で、緊急度が高い関野橋から梶野橋間の整備を計画しました。

平成 26 年度の東京都教育庁との協議では、「補植したヤマザクラの 10 年後の生育状況や近隣住民のご意見、モデル区間事業の効果等、総合的な検証作業が必要である」とのご指摘がありました。

ただし、10 年の経過を見守って行く中で、既存のヤマザクラは毎年十数本枯死しサクラが減少していくことは予測されます。そのため小金井市では、継続的にヤマザクラを補植し植え繋いでいく、欠損木の補植方式も有効性があるという認識に至り、平成 26 年度から 28 年度までの 3 年計画で関野橋から梶野橋までの区間を整備いたしました。

現在、小金井市では、各分野の専門家で構成される小金井市玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会を設け、専門家のご意見を参考にしながら、欠損木に対するヤマザクラの補植を行っていく計画を策定しております。同時に、専門家による実地検分も行っています。

その結果、ヤマザクラの若木が順調に生育している状況が観察され、さらに既存のヤマザクラからは若い枝が上水方向に伸び始めている等、雑木伐採による日照の改善効果が少しずつ形にあらわれてきています。

小金井市では、地元自治体として検証作業の参考となる資料を積み重ねることは大事なことで、ヤマザクラ補植と並行して生育状況や林床環境の経過も注視して行く必要があります。その上で、小金井(サクラ)の管理者である東京都教育庁に、将来的にモデル区間事業同様の整備を進めていただくよう、協議を進めてまいります。

2 小金井桜育苗ファーム設置に係る東京都との交渉について

小金井(サクラ)を保護し次世代と継承していくためには、苗木の育成も大切な事です。これまでは、小金井市本町五丁目にある緑地をヤマザクラの育苗ファームとして利用してきました。

しかし、所有者からの返還請求に伴い、代替となる育苗ファームを確保する必要が生じました。小金井市では、適地確保に奔走した結果、小長久保公園を新たな育苗ファームとして確保に至った経緯があります。

現在、小金井(サクラ)継承のために、貴団体のご協力のもとヤマザクラの苗木の育成及び小長久保公園での補植用の後継樹の育成をしていただいています。現状では、名勝区間内の小金井市域におけるヤマザクラの補植には何とか対応できておりますが、名勝区間は約 6 km にもおよび、小金井市以外の自治体も含まれます。

小金井(サクラ)を将来にわたって全域的に保護し継承していく場合には、より多くの後継樹の育成が求められ、より条件のいい適地を探すことは必要なことであると考えます。その点は兼ねてからの懸案であり、小金井市からは、以前より東京都教育庁に要望し協議をしてきました。

東京都教育庁では、場所の確保を目指し各方面と調整をいただいております。適宜、小金井市も協力しているところで

3 東京都・四市・市民団体「連絡組織」の設置について

「名勝小金井桜復活事業」を進めるに当たっては、必要に応じて東京都水道局及び東京都教育庁また貴団体を含めた市民団体と協議しながら進めてきたところです。

また、関係市との連携については、本事業を進めるためのものとは別に小金井（サクラ）の維持管理を目的とする東京都教育庁主催の関係市連絡協議会や、玉川上水保全を目的とする東京都環境局による関係区市・市民団体の連絡協議会等があり、そのような場で意見交換、連絡調整を行っている状況です。

小金井(サクラ)の整備事業を進めていくには東京都との調整・連携が必要ですが、一方で、市民団体との協力も本事業を進める上では必要不可欠です。そのため、今後もこれまで同様、必要に応じて東京都教育庁及び東京都水道局、また、市民団体との協議を行っていきます。

他の市域については、他市の考えを尊重する必要があります。本事業を広域的に進めることを目的とした、東京都・四市・住民団体との「連絡組織」の設置については、東京都や他市の意向も踏まえながら、今後も協議してまいります。

4 「指定管理者制度」等の活用について

江戸時代中期、川崎平右衛門等によって作り出された、小金井(サクラ) は、長年、近隣地域の方々のご助力によって、大切に守られ現在と繋いできたものであり、まさに『地元が守り、次代に継承する歴 史的文化遺産』の象徴とも言えます。

東京都の所有である玉川上水はそのフェンス内の立入りには制約があり、行政や特定の業者以外は立入りが許されていません。また、フェンスの内外の上水路や歩道帯では管理体制が一樣でないために、各管理者がそれぞれの計画の中で作業しているのが実情です。

現在、運営管理については、東京都教育庁を中心に関係機関に管理計画の共有化を促しているところです。他方で、「指定管理者制度」またはボランティア等を導入し、地元精通した市民団体に維持管理を委託することは、江戸時代から続けられてきた保護活動のあり方に近い考えです。「指定管理者制度」そのものについての適合性や可能性については、研究の必要があると考えますが、こうした方策を応用すること によってもたらされる日常管理の効果には大いに期待できるものと考えます。

小金井(サクラ)の管理運営 のあり方については、鋭意、関係機関と調整してまいります。

(問合先) 生涯学習部生涯学習課 042-387-9879

名勝 小金井桜の植樹本数の推移

小平市旧小川水衛所跡から武蔵野市境橋間 6 km

2011 年小金井市「玉川上水・小金井桜整備活用実施計画」から抜粋

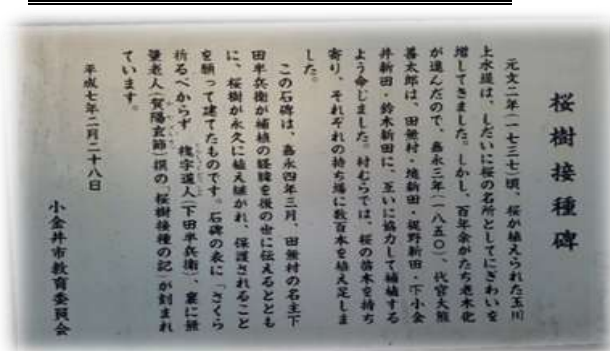
名勝指定市域別のサクラの本数の推移(18 年間で 329 本が枯死)

小平市	1993 年(平成 05 年)	両岸	436 本				
	2011 年(平成 23 年)	左岸 210 本・右岸 106 本	合計 316 本	枯死数 120 本	枯死率 28%		
小金井市	1993 年(平成 05 年)	両岸	529 本				
	2011 年(平成 23 年)	左岸 155 本・右岸 246 本	合計 401 本	枯死数 128 本	枯死率 24%		
西東京市	1993 年(平成 05 年)	両岸	48 本				
	2011 年(平成 23 年)	左岸 30 本・右岸 0 本	合計 30 本	枯死数 18 本	枯死率 38%		
武蔵野市	1993 年(平成 05 年)	両岸	102 本				
	2011 年(平成 23 年)	左岸 7 本・右岸 32 本	合計 39 本	枯死数 63 本	枯死率 62%		
合 計	1993 年(平成 05 年)	両岸	1115 本				
	2011 年(平成 23 年)	左岸 402 本・右岸 384 本	合計 786 本	枯死数 329 本	枯死率 30%		

2010 年から 2021 年までの新たな植樹桜本数(茜屋橋から梶野橋間)の推移

2010 年度(平成 22 年度)	左岸 15 本	右岸 11 本	合計 26 本	新小金井橋から関野橋間
2011 年度(平成 23 年度)	左岸 23 本	右岸 17 本	合計 40 本	新小金井橋から関野橋間
2012 年度(平成 24 年度)	左岸 15 本	右岸 10 本	合計 25 本	新小金井橋から関野橋間
2013 年度(平成 25 年度)	左岸 本	右岸 本	合計 26 本	茜屋橋から新小金井橋間(補植)
2014 年度(平成 26 年度)	左岸 本	右岸 本	合計 22 本	関野橋から梶野橋間
2015 年度(平成 27 年度)	左岸 本	右岸 本	合計 14 本	関野橋から梶野橋間
2016 年度(平成 28 年度)	左岸 本	右岸 本	合計 19 本	関野橋から梶野橋間・武蔵野市 8 本
2017 年 4 月	左岸 01 本		合計 01 本	平右衛門橋袂(没後 250 年記念)
2017 年度(平成 29 年度)	左岸 07 本	右岸 08 本	合計 15 本	小金井橋から新小金井橋
2018 年度(平成 30 年度)			合計 20 本	小金井橋から新小金井橋
2019 年度(令和 元年度)			合計 26 本	小金井橋から陣屋橋
2020 年度(令和 2 年度)	左岸 01 本	右岸 09 本	合計 10 本	小金井橋から関野橋

244 本(内枯死 6 本) 総合計 238 本



嘉永 4 年(1851)の補植の際に下田半兵衛により関野橋袂に建てられた「桜樹接種碑」には

『百年余がたち老木化が進んだので・・・村むらで桜の苗木を持ち寄り、

それぞれの持ち場に数百本を植えました。・・・桜樹が永久に植え継がれ、保護されることを願って建てたものです。』

とあります。是非先代の願いを私たちも引き継ぎたいと願っています。

名勝小金井桜の会事務局:090-6507-4310(事務局/小沼)